

## 患者ベット周辺

- 人工呼吸器の接地確認
- バイタルサインモニターの接地確認
- 輸液ポンプの接地確認
- 脳波計の接地確認
- 電動ベットの接地確認
- 各装置及びベットの接地が一点アースであることの確認
- 上記装置類が電極入力箱及び脳波電極コード類から70cm以上離れていることの確認
- 未使用機器の電源コンセントは取り外すか、70cm以上離れていることの確認
- 電気毛布・ベットの電源コンセントを取り外し済み確認
- 人工呼吸器と電極入力箱の配置は、ベットを挟み反対側に設置
- 輸液ポンプは、頭部から離し足側に設置
- カーテンは束ねる
- 部屋の明るさ（適度な明るさ、波形が見える程度）
- 部屋の室温（       ℃） 湿度（       %）

## 患者ベット内

- 電極入力箱は頭部より30cm以内に設置
- 電極入力箱は人工呼吸器と対角位置に設置
- 頭部の下に頭部用シールドマットを敷く
- 頭部外電極を入力箱に接続（赤はX3(+) 青はX4(+) アースはX5)
- 電極コードは束ねてあることを確認
- 開口面積は最小であることを確認
- 電極類の接続距離は最短であることを確認

## 生体装着部

- 濡れタオルにて頭部の汚れ除去
- スキンピュア・酒精綿にて頭部の汚れ除去
- 電極間抵抗を10k $\Omega$ 以下、電極インピーダンスを2k $\Omega$ 以下の確認
- Z電極装着を確認
- 電極間距離10cm以上（最短でも7cm以上）としチェックシートに記入
- 脳波測定電極コードは全て束ね、入力箱に短く丸めて接続（ガーゼなどで縛る）
- 頭部外電極は前腕内側へつける(7cm間隔離す)
- 頭部外電極コードも脳波測定電極と合わせて束ね、体側に沿わせて入力箱に接続
- 心電図モニター電極を入力箱に接続（赤(右手)はX1(+) 黄(左手)はX2(+))
- 心電図モニタークリップを両手首にはさめ、電極コードを束ねる
- 外傷などの確認と電極の位置（多少のずれは仕方ないので図で描く）
- 脳死判定用のモニタージュで電極装着の確認

# 患者状態の変化

- 患者のバイタルサインは変化しないか

## 設定

- 検査用モニタージュは、脳死判定用に設定
- SENS・TC・フィルターの選択・紙送り速度の設定確認
- ペン13番を下ろす

## 測定

- インピーダンスチェックの実行（ $2\text{ k}\Omega$ 以下の確認）

以下フォローチャートに沿って測定

- 通常感度（ $10\mu\text{V}/\text{mm}$ ）で低域遮断フィルターの時定数0.3、高域遮断フィルターOFFの校正曲線の描出、設定状態を記入
- 記録開始時間の記入（ 月 日 時 分）
- 通常感度 高域遮断フィルター（OFF 60 30）
- 10分以上の記録
- 刺激確認（光刺激、Drが呼名左右2回ずつ、Drが痛覚左右頬2回ずつ）
- 通常感度（ $10\mu\text{V}/\text{mm}$ ）で低域遮断フィルターの時定数0.3の校正曲線の描出（高域遮断フィルターを変更した場合は、その条件で校正曲線）
- 記録終了時間の記入（ 月 日 時 分）
  
- 高感度（ $2\mu\text{V}/\text{mm}$ ）で低域遮断フィルターの時定数0.3、高域遮断フィルターOFFの校正曲線の描出、設定状態を記入
- 校正曲線の感度を50→ $10\mu\text{V}$ に変えて校正曲線の描出
- 記録開始時間の記入（ 月 日 時 分）
- 高感度 高域遮断フィルター（OFF 60 30）
- 30分以上の記録
- 刺激確認  
（光刺激、Drが呼名左右3回ずつ、Drが痛覚左右頬3回ずつ、Drが種類を変えた痛覚左右3回ずつ）
- 高感度（ $2\mu\text{V}/\text{mm}$ ）（校正曲線の感度 $10\mu\text{V}$ ）で低域遮断フィルターの時定数0.3の校正曲線の描出（高域遮断フィルターを変更した場合は、その条件で校正曲線）
- 校正曲線の感度を10→ $2\mu\text{V}$ に変えて校正曲線の描出
- 記録終了時間の記入（ 月 日 時 分）

## 保存

- データの保存・再生
- アーチファクトの確認
- 第1回目と第2回目での変化の確認